

1 地層の作り方【地層の作り方】（教科書 P.231, 233）

プリント 10 で学習しました

目的：流れる水のはたらきと地層の作り方を結びつけて考える。

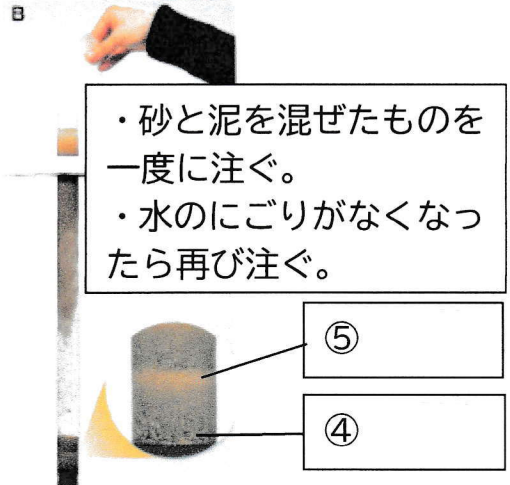
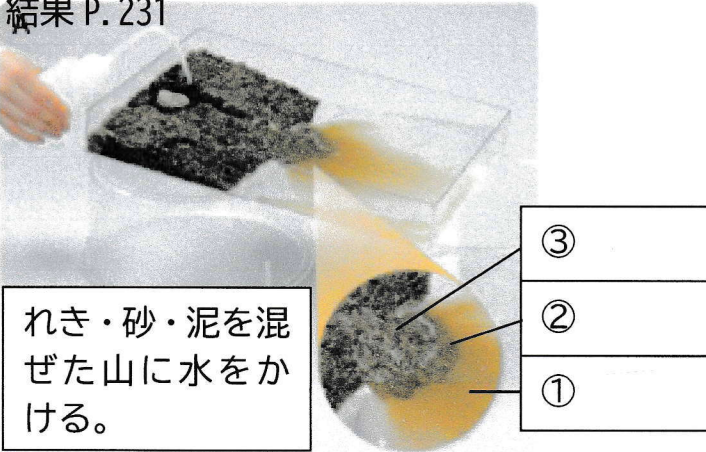
課題：海まで運搬されたれき・砂・泥のうち、陸地からより遠く（沖合い）まで運搬されるのは何か。また、それはやがてどうなるだろうか。

予想：（れき・砂・泥）、やがて_____！

理由：粒の大きさや重さと運ばれ方を結びつけて考えてみよう。

粒の大きさ（大）れき→砂→泥（小）

結果 P.231



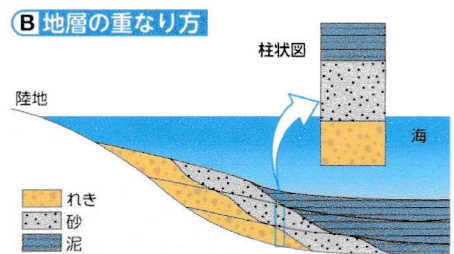
A：遠くまで運ばれているのは、粒の小さく軽い（①）→（②）→（③）の順に沈む（堆積する）。

B：大きな粒の（④）→（⑤）の順に沈んだ。

まとめ&補足説明

・海まで運搬されたれき・砂・泥は、粒の（⑥ 小 さ・ 大 き）い（⑦）が遠く（沖合い）まで運ばれ、海底に堆積する。長い時間をかけて、水の底に積み重なって（⑧）ができる。

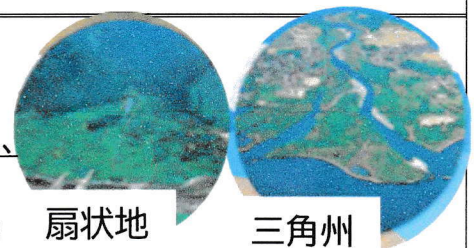
・陸地から遠くはなれた大洋の海底では、海中の（⑨）の死がいなどが堆積する。



学びを活かして考えよう

れきや砂や泥は水の流れがゆるやかになったところに堆積するため、川が山地からでたところでは扇状地、平野から海に出たところでは三角州がつくられる。

扇状地と三角州では、どちらがより小さい粒の堆積物でできているだろうか。



*三角州の方が扇状地よりも（⑩ 上流・下流）にできるので、粒の小さい堆積物からできている。

答え：①泥②砂③れき④砂⑤泥⑥小⑦泥⑧地層⑨プランクトン⑩下流